

平成22年5月15日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18404018
 研究課題名（和文）建築家ガブリエルによる古典主義伝播に関する研究
 研究課題名（英文）Study on the architect Gabriel's diffusion of the architectural classicism

研究代表者
 土居 義岳 (DOI YOSHITAKE)

研究者番号：00227696

研究成果の概要（和文）：フランス18世紀の建築家ジャック・V・ガブリエルが、中央から地方に派遣され、王像広場などの建築プロジェクトにかかわった。その過程で、中央権力である王室と、地方総督、地方長官、地方三部会、高等法院などの地方権力諸勢力との関係をいかに調節しつつ、地方での経験のなかから建築アカデミーで推敲された標準設計とのフィードバックをもたらしたかを、政治的、経済的、社会的なバックグラウンドもおさえながら、建築史学の視点から明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Jacques Gabriel, French architect of the 18th century, was sent to the provincial cities to take care of architectural project such as *Place Royale*. In this process he was mingled between the central power such as the King and the Court, and the local powers represented by the Governor Generals, local governments, the high courts and so on, finally to bring a feedback from his local experience to modifying the academic standard architectural design. This Gabriel's activity is made clear from the viewpoint of architectural history taking into account the political, economic and social backgrounds.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2007年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
総計	7,800,000	2,340,000	10,140,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：古典主義、ガブリエル、ボルドー、ディジョン、レンヌ、建築アカデミー

1. 研究開始当初の背景

(1) 背景にヨーロッパ統合とそれにもなう地域の自律性の高まりがあった。地域の建築的・都市計画的自律性を考察すべき視点が生まれた。

(2) ヨーロッパ西洋建築における古典主義はこれまで純理論的に研究されてきたが、社会的背景との相関は強調されなかった。

(3) 以上から建築の古典主義が、中央から地方にどう伝播したかを、理論的かつ具体的

に調べ、それが地方の独自性として現代にもつながっているというパースペクティブのもとに建築史的に考察する必要がうまれた。

2. 研究の目的

18世紀フランス古典主義の建築家ガブリエル(1698-1782)に注目し、おもには地方都市における、補足的には首都パリにおける、建築活動を歴史的に位置づけ、彼らの建設活動がなりたっていた政治的・経済的・社会的な背景を明らかにすることである。

ガブリエルは建築アカデミーの主要メンバーであり、その主事にもなり、また王室首席建築家としてレンヌ、ボルドー、ディジョンなどの地方に派遣され、やはり宮廷から派遣された地方長官らと協調して、主要な公共建築の設計と建設にかかわった。そしてアカデミーで確立されたオフィシャル・スタイルを、中央政府の管理下にあった各種公共建築に適用していった。

こうした古典主義の伝播を、中央による地方政治経済への介入、中央の文化の地方への喧伝、地方の地域的伝統や地域的ネットワークとの相克といった文脈のなかで読み解くことで、たんなる様式伝播史観ではなく都市政策史、地域史、社会史的なものも加味した視点から、総合的に様式の伝播という現象を明らかにする。またそれをとおして古典主義時代の、地方の地域性の一側面を解明しようとする。

3. 研究の方法

(1) 文献調査。現地調査の準備でもあり、各市史、建築家ガブリエル父子についての西洋史、建築史、都市史関連の先行研究を精査する。

(2) 現地調査。ボルドー市、レンヌ市、ディジョン市、補足的にラ・ロシェル市、ナント市での現地調査と分析をおこなう。おもに公立公文書館、公立図書館において18世紀都市プロジェクト関連の資料を収集する。さらにパリ市の国立公文書館、国立図書館などで同様の資料蒐集をおこなう。

(3) 以上の調査旅行から得られた資料をもとに、都市プロジェクトを対象として複写した図版・図面から諸計画を時系列にそって整理する。すなわちプロジェクトの当初案、改定案、第3案・・・といった計画変更のプロセスを時系列にそってまとめる。つぎにこれらの計画の変更にたいし、文献資料から判明した地方長官、市、建築家の主張がどう対応しているかを分析し、地域・都市の視点から考察する。

(4) これらプロジェクトの進展や変更のプロセスのなかで、王室、建築家、地方長官、地域諸団体といった関係諸団体の意向がどのようにどの程度反映されたかを分析し考

察する。

4. 研究成果

建築家ガブリエルが、宮廷が地方支配を強化する18世紀という状況のなかで、一種の官製様式である古典主義をいかに広めたかを知ることを研究の目的として今年度の調査・研究を行った。その結果、申請書における研究実施計画に対応して次の事実を明らかにし、成果をあげた。

(1) ボルドー市、レンヌ市、ディジョン市の3都市の比較から、宮廷に従順であったブルゴーニュ州ディジョンでは都市と宮廷間では軋轢はなかったこと、宮廷にとってはある意味で反対勢力であったボルドー、レンヌでは、建設されるべき建物の優順などで葛藤があって、ガブリエルは調停役を果たしたことを明らかにした。

(2) ディジョン市では17世紀からの連続的な公共施設建設の文脈にガブリエルが適合した。

(3) 宮廷と地方の関係において、建設費提供などの優遇措置に、地域差があった。

(4) ラ・ロシェル市の大聖堂建設にガブリエルが貢献し、古典様式を広めた。

(5) ガブリエルは、政治的にまた建築様式的に、中央と地方の調停者であった。とくに地方建築家は古典主義様式について統一した概念がなく、彼はある程度様式を統制したとはいえ、最終的にはその反省に立ってアカデミーにおいて統一の様式を定式化した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

土居義岳、ボルドー王像広場の実現されなかった前身計画、日本建築学会 2007 年度大会 (九州) 学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠、pp. 247-248、2007 年 8 月、福岡

土居義岳、建築家ガブリエルの地方における立場 ---ボルドー、レンヌ、ディジョンを中心にして、日本建築学会九州支部研究報告集 (計画系) 48 号 (沖縄)、pp. 801-804、2009 年 3 月 8 日、沖縄

建築家、建築家ガブリエルによるレンヌ市庁舎プロジェクト---その建設経緯とオーダー比例、日本建築学会九州支部研究報告集 (計画系) 49 号 (長崎)、2010 年 3 月 7 日、長崎

〔図書〕(計1件)

土居義岳他（共著）、中央公論美術出版、建築史攷、2009年、「[プロジェクトとしてのボルドー王像広場への序説]」の章を担当、査読付き）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土居 義岳 (DOI YOSHITAKE)
九州大学大学院・芸術工学研究院・教授
研究者番号：00227696

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：